



© 1985 ロバート・バレット

ラダイスに来ることを歓迎されます。』（『真理を守る——福音の参考資料』82－83）

ブリガム・ヤング大管長（1801－1877年）の次の言葉を讀むと、霊界と神のみもの違いが理解しやすくなるであろう。「あなたはこの幕屋を横たえと、どこに行くのでしょうか。あなたは霊界に行くのです。アブラハムのふところに行くのでしょうか。違います。そのような所ではなく、霊界に行きます。霊界とはどこにあるのでしょうか。霊界はまさにここにあるのです。善い霊も悪い霊も一緒に行くのですか。はい、そうです。どちらも一つの王国に住むのですか。そのとおりです。太陽に行くのですか。違います。地球として組織された領域を超えた所に行くのですか。いいえ、違います。彼らが連れて来られるのは、この地球なのです。」（*Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットソー選〔1954年〕, 376）

アルマ 40：16－22 第一の復活

・アルマは地上での時の経過に関連して「第一の復活」について語っている。イエス・キリストが最初に復活され、すぐ後に時の初めからキリストの復活までの間にこの世に生を受けて死んだ義人が復活する（アルマ 40：16, 20；教義と聖約 133：54－55 参照）。この復活が、アルマの言う「第一の復活」である。

・ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、第一の復活には2通りあり、その時期も内容も異なると説明している。

「キリストが死からよみがえられたときに大勢の人が復活したが、キリストの再臨のときに起こる義人の復活を第一の復活と呼ぶのが習わしである。わたしたちにとっては、これが最初である。なぜならわたしたちは過ぎ去ったことは考えず、考慮の対象にしていないからである。主は、再臨のときに墓が開かれ、正しい者は出て来て主とともに千年の間地を治めると約束された。……

キリストが来られるときに、『墓の中で眠っていた者たちは、彼らの墓が開かれるので出て来る。そして、彼らもまた、天の柱のただ中で主に会うために引き上げられる。彼らはキリストのもの、初穂、キリストとともに最初に降る者、地上や墓の中にいてキリストに会うために最初に引き上げられる者である。これはすべて、神の天使が吹き鳴らすラッパの音による。』（教義と聖約 88：97－98）これらの者は、『神とキリストが万民の審判者として住まわれる、天にその名が記されている』正しい人々である。『これらは、自らの血を流すことによってこの完全な贖罪を成し遂げられた、新しい聖約の仲保者イエスを通じて完全な者とされた正しい人々である。』（教義と聖約 76：68－69）

この大きな出来事に続き、主と、主に会うために取り上げられた義人が地上に降って来た後、もう一つの復活が起こる。これは少し遅れて起こるが、第一の復活の一部と考えることができる。この復活で、主に会うために取り上げられる資格はないが、よみがえって福千年の統治を享受する資格のある月の栄えの位に属する者が出て来る。（*Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻〔1954－1956年〕, 第2巻, 295－297）

・十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老（1915－1985年）は「正しい者の復活」とも「命の復活」とも呼ばれる第一の復活について、次のように説明している。「この復活の朝に出て来る者は日の栄えの体をまとい、日の栄えの栄光を受け継ぐ。これらの者はキリストの初穂である。この復活の午後に出て来る者は月の栄えの体をまとい、したがってその王国を受け継ぐ。彼らは、このようにして出てきたときにキリストのものとなると述べられている。それまでに復活した者は皆、日の栄えの体を得ている。月の栄えの者が出て来るのは、再臨後のことである（教義と聖約 76：50－80；88：95－99）。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻〔1971－1973年〕, 第1巻, 196）

アルマ 40：23 「本来の完全な造り」

・十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、復活したら欠陥がなくなるという知識がもたらす慰めについて語っている。

「生まれつきの障がいを持った人や、生まれてからのけが、病気、加齢により困難を強いられている人が『本来の完全な造り』に復活できるとは、何という慰めでしょうか。……

復活への確信はわたしたちに力と広い視野を与え、わたしたち自身や家族が先天的、後天的を問わず抱える肉体的、精神的、情緒的障がいなどのこの世での試練に耐える力を与えてくれます。そうした障がいは復活までのほんの一時的



© 2000 デル・バーノン

なものであることが分かるからです。』（『リアホナ』2000年7月号、17－18）

・ジョセフ・F・スミス大管長（1838－1918年）は、肉体の損なわれた部分が復活のときにどうなるかについて次のように語った。「障がいはい取り去られ、欠陥は取り除かれるであろう。そして、男も女もそれぞれの霊の完成、神が最初に意図された完成に到達するであろう。神の相続人となり、イエス・キリストと共同の相続人となるために生まれてきた神の子である男女が、律法に従うことによって霊的にも肉体的にも完全な者となるのは神の目的である。神はすべての子らが完全な者となるための手段として律法をお与えになったのである。』（*Gospel Doctrine*, 第5版〔1939年〕、23）

アルマ 40：26 「悪人には恐ろしい死が及ぶ」

・次の説明を読むと、この「恐ろしい死」の意味するところが理解しやすくなる。「聖文には、ところどころに、第二の死からの救いについて触れた箇所があります。第二の死とは、義から断ち切れ、どの栄光の王国にも入ることのできない最終的な霊の死です（アルマ 12：32；教義と聖約 88：24 参照）。この第二の死は最後の裁きの時まで取っておかれますが、ごくわずかな人々しか受けません（教義と聖約 76：31－37 参照）。この世にかつて住んだほとんどすべての人々は、第二の死からの救いを保証されています（教義と聖約 76：40－45 参照）。』（『真理を守る』119）

アルマ 41 章 回復の律法

・今日の一部の人々と同じように、コリアントンは、だれもが復活の祝福を受けられるのであれば、義にかなった生活をするにどんな重要性があるのかと疑問に思ったかもしれない。アルマ 41 章は、このような疑問に答えている。

天の御父の子供が回復の律法の結果何を受けるかは、神の律法をいかに忠実に守ったかにかかっている。アルマがコリアントンに、「罪から幸福へ回復される」ことはない

説明したのはこのためである（アルマ 41：10 ㊦）。これは収穫の法則と似ている。つまり、人はまいいたものを刈り取るのである（ガラテヤ 6：7；教義と聖約 130：20－21 ㊦参照）。アルマは息子に、「絶えず善を行いなさい。……再び善が報われるであろう。あなたから出るものがあなたに返って来て、回復されるからである」と述べている（アルマ 41：14－15）。

アルマはまた、回復の律法によって復活のときに体は完全な形に回復されることを息子に教えた。「霊は体に回復され、体は霊に回復される。……まことに、髪の毛一筋さえも失われること〔はない〕。」（アルマ 40：23）しかし、復活した体がどの栄光の階級に属するかは、各個人の忠実さの度合いによって決まる（教義と聖約 88：28－32 参照）。

アルマ 41：10 ㊦ 「悪事は決して幸福を生じたことがない」

・次の勧告では、福音の標準を守って生活することによって幸福になるよう努めることの大切さが強調されている。

「多くの人々は幸福と充実感を主の戒めに反する活動の中に見いだそうとします。彼らは自分たちのために立てられた神の計画を無視し、真の幸福をもたらす唯一の源泉を拒み、『自分のように惨めになることを求めている』悪魔に屈します（2 ニーファイ 2：27）。そして最終的にはアルマがその息子コリアントンに与えた警告が真実であることを悟るのです。『悪事は決して幸福を生じたことがない。』（アルマ 41：10）……

幸福になろうと努力するときに、真の幸福に至る唯一の道は福音に従った生活を送ることだということを覚えておいてください。戒めを守り、強くなれるよう祈り求め、罪を悔い改め、健全な活動に参加し、有意義な奉仕を行おうと努力するときに、安らかで永遠に続く幸福を見いだすことでしょう。愛ある天の御父が定められた境界を越えることなく楽しい時間を過ごすことができるようになるでしょう。』（『真理を守る』79－80）

アルマ 41：11－14

「公正に振る舞い、義にかなって裁き、絶えず善を行〔う〕」と、どのような報いを受けるか。

アルマ 42：1－10 「試しの時期」

・十二使徒定員会の L・トム・ペリー長老は、死すべき状態

と呼ばれる試しの時期の目的を説明している。「現世のおもな目的は、創世の前から存在していたわたしたちの霊が、この世において肉体と一つになり、成長するための機会にあずかることです。こうして、霊と肉体が一つになって初めて可能になる特権、すなわち成長や発達、成熟などの機会が与えられるのです。肉体を得たわたしたちは、試しの世と呼ばれる現世で、幾つかの試練をくり抜けます。現世は学びの時であり、永遠という機会にあずかるにふさわしいことを証明する、試しの時です。すべては、御父がその子供たちのために用意された、神聖な計画の一部なのです。」(『聖徒の道』1989年7月号, 15 参照)

・七十人の会員として奉仕していたときに、ロナルド・E・ポールマン長老はこれに付け加えて、死すべき状態とは、反対の物事を学んでそのどちらかを選ぶ時期であると語った。「前世でわたしたちが受け入れた救いの計画には、地上での試しの期間が含まれていました。その間にわたしたちは、相反するものに遭遇し、選択し、その結果について学び、神のみもとへ帰る準備をします。その過程において、苦難を経験することは不可欠です。わたしたちはそれを承知のうえで、この世に来ることを選びました(2 ニーファイ 2:11 - 16 参照)。」(『聖徒の道』1989年7月号, 25)

・七十人のウィリアム・R・ブラッドフォード長老は、死すべき世の目的は天の御父のようになることであると結論づけている。「この世の生活は試しの期間です。しかしその期間は、御子イエス・キリストの教えに従って、天の御父のようになることを学べるすばらしい時間の贈り物だとも言えるでしょう。主が導いてくださるのは煩雑な道ではありません。分かりやすく、まっすぐで、御霊^{みたま}によって明るく照らされた道なのです。」(『聖徒の道』1992年7月号, 33)

アルマ 42:11 - 31 正義と憐れみの律法^{あわ}

・十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、救い主の犠牲のおかげで、正義の律法を犯すことなく人に憐れみが及ぶようになったと説明している。

「わたしたちは皆一種の霊の負債を負って生きています。いつか勘定が打ち切れ、清算をしなければならない日がやって来るでしょう。今は気に留めなくてもそれでよいかもしれませんが、やがて、決算日が来て、抵当権の行使を迫られます。そのときわたしたちは泣きながら、だれか、だれでもいいから、助けてくれる人を探さなければならないのです。」

永遠の律法によれば、わたしたちの負債を引き受け、その代価を払いかつわたしたちの贖いの交渉^{あがな}をしてくれる人がいないかぎり、憐れみは及ばされないのです。

もし仲保者がいなければ、また友人がいなかったならば、

正義の要求する無情の厳しい重荷はすべて、間違いなく、わたしたちの身に降りかかるのです。すべての違背に対する完全な償いは、その大きさや程度は違っても、最後の1コドラントを支払ってしまうまで要求されるのです。

榮えある真理は、仲保者の存在を次のように宣言しています。

『神は唯一であり、神と人との間の仲保者ただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。』(1 テモテ 2:5)

仲保者キリスト・イエスを通して、永遠の正義の律法を犯すことなしに、憐れみが一人一人に完全に及ぶのです。

この真理は、キリスト教の教義の根本です。……

憐れみはだれにでも自動的に及ぶというものではありません。主との聖約を通して及ぼされるのです。憐れみは主の条件、主の寛大な条件に従って初めて与えられるのです。そして、その条件として絶対に欠かせないのが、罪の赦し^{ゆる}を受けるために水に沈めるバプテスマです。

人は皆正義の律法による保護を受けることができます。またそれと同時に、一人一人が憐れみのもたらす贖いと癒しの祝福を受けることもできるのです。」(『聖徒の道』1977年10月号, 487 - 488 参照)

・ニール・A・マックスウェル長老は、次のような深い洞察を示す言葉を語っている。「神の正義と憐れみは完全ですから、最後の裁きのときには、かつては神の正義や憐れみに、また現世で与えられた環境に疑問を差し挟んだ人からも、不平はまったく聞こえません(2 ニーファイ 9:14 - 15; アルマ 5:15 - 19; 12:3 - 14; 42:23 - 26, 30 参照)。」(『リアホナ』2000年7月号, 88)

アルマ 42:18 - 30 良心の呵責^{かしゃく}

・ボイド・K・パッカー会長は、良心の呵責が時には大切な役割を果たすと説明している。

「これから、罪悪感によって心に嫌な気持ちを強く感じて



いる人々の苦痛を和らげることを目的にお話ししたいと思います。今わたしは、『ここが少し良くないようですね……』と言って診察を始める医師のような気持ちでいます。

わたしたちは皆、過ちを犯した後に良心の痛みを多少なりとも感じた経験があります。

ヨハネはこのように述べています。『もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。』(1ヨハネ1:8) ヨハネはさらに強い口調でこう述べています。『もし、罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであって、神の言はわたしたちのうちにない。』(1ヨハネ1:10)

わたしたちは皆時々、何か悪いことを行っただけで、または何かを行わなかったために、良心の呵責にさいなまれます。中にはこれを何度も感じている人もいるかもしれませんが。わたしたちは肉体に痛みを感じますが、同じようにこの罪悪感^{しよくざい}は霊に受けるものです。……

わたしたちは皆、過ちを犯します。時には自分を傷つけ、そして自分だけの力では取り返しのつかないほどひどく他人を傷つけることがあります。物を壊して、自分の力では元どおりにできないことがあります。すると、わたしたちは天性のゆえに罪悪感や恥ずかしさを覚え、自分の力だけでは癒すことのできない苦しみを味わいます。そのときに贖罪の持つ癒しの力が助けてくれるのです。

主は言われました。『見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。』(教義と聖約19:16) (『リアホナ』2001年7月号, 25-27 参照)

● スペンサー・W・キンボール大管長 (1895 - 1985 年) は、敏感な良心を持つことの大切さについて語っている。「わたしたちが良心と名付けている敏感でしかも強力な道案内を神が授けてくださっていることは、何とすばらしいことではないか。『良心は人を救いに至らせるために、神が各人に与えられた神聖なひらめきである』という実に適切な言葉がある。確かに良心は、罪に目を向けさせ、改めようとする決意を促し、自分の犯した過ちを言い訳したりせずにそのまま受け入れ、進んで事実を直視し、結果を受け止め、必要な罰を受けさせるものである。このような心の状態になって初めて、人は悔い改めを始めたことになるのである。罪を悲しむことは悔い改めに近づいたことであり、悪い行いをやめることは悔い改めの始まりであるが、その人が良心に駆り立てられて問題に取り組むまでは、換言すれば言い訳や正当化が見られるかぎり、赦しへの道^{みち}を歩き始めることができないのである。これが、アルマが息子のコリアントンに、『心か

ら悔い改める者のほかにはだれも救われない』(アルマ42:24) と言った意味である。』(『救しの奇跡』158)

アルマ42:23 贖罪^{しよくざい}は復活をもたらし

● ゴードン・B・ヒンクレー大管長 (1910 - 2008 年) は、復活を可能にした贖^{あがな}いの犠牲のすばらしさについて、次のように証している。



「主の愛はすべての人々のために犠牲としてその命を与えてくださった、主の死という比類ない形で表されました。言葉に表すことのできない苦痛の中で行われた贖罪は、歴史上最も偉大な出来事、つまり何もささげるもののない人間に恵みとして、過去から未来にわたってこの地上を歩む

すべての人に対して復活の約束を授けてくださった出来事なのです。

人類史上これに比肩し得る出来事はありません。比べられるものはないのです。全人類のための自己を顧みない、無条件の愛、それはすべての人類種族への比類なき慈悲の業となったのでした。

そしてあの最初の復活祭の朝、不死不滅の勝利の宣言がこだまします。これがパウロのその絶妙な言葉です。『アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。』(1コリント15:22) 主はすべての人に復活の祝福を授けられたのみならず、主の教えと戒めを守る人に永遠の命の扉を開かれたのです。』(『リアホナ』2000年1月号, 87)



アルマ42:27-30

これらの節では、選択の自由と責任にはどのような関係があると言われているか。

理解を深めるために

- 罪惡が幸福を生じることがないのはなぜだろうか。悪い人々が幸福そうに見えることがあるのはなぜだろうか。
- 救い主の贖罪しよくざいの恩恵にあずかるためには、何をしなければならぬだろうか。
- 正義の律法はあなたのためにどのように働くだろうか。
- 憐れみの律法はあなたのためにどのように働くだろうか。

割り当ての提案

- アルマ 40 - 42 章からの引用を 2, 3 使って、「霊界」というテーマの短い話を準備し、可能であれば発表する。
- アルマは息子コリアントンに復活についてどんなことを教えただろうか。
- 次のそれぞれの語句の定義あわ、または説明を簡単に書く。回復の律法、正義の律法、憐れみの律法。

第33章

アルマ43 - 51章

はじめに

争いや不和、戦争のために、ニーファイ人の国家は滅亡の危機に瀕^{ひん}していた。しかし、紛争の原因はレーマン人だけではなかった。ニーファイ人の不穏分子が、権力を求めて数々の深刻な問題を引き起こしていたのである。ニーファイ人はイエス・キリストを信じる信仰を働かせ、義になかった軍の指揮官はもちろん、主の預言者に従うことによって敵に打ち勝った。

司令官モロナイの動機と意図を、アマリキヤのそれと比較してみよう。預言者モルモンは司令官モロナイについてこう書いている。「もし過去、現在、未来のすべての人がモロナイのようであれば、見よ、地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。」(アルマ48:17) あなたも、たとえ困難でつらい状況下にあっても、モロナイのように「確固としてキリストを信じ」続けることができるのである(アルマ48:13)。

注解

アルマ43:2-3 「ニーファイ人とレーマン人との戦争」

• アルマ書のこの部分、つまり43章から62章で、モルモンは「戦争の話に戻ろう」と読者に注目を促している(アルマ43:3)。なぜモルモン書にはこれほど戦争の記述が多いのかと不思議に思う人もいるであろう。エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)はこう述べている。「わたしたちは、モルモン書を読むことにより、キリストの弟子たちが戦争の時代をどのように生きたかを知ることができます。」(『聖徒の道』1987年1月号、6)

モルモンはわたしたちの時代を見ており、わたしたちが「戦争と戦争のうわさ」のある時代に生きることを知っていたため(教義と聖約45:26。黙示9章も参照)、そのような時代に義人として生きる方法を記録したのである。武力紛争に関係してきた末日聖徒は多く、これから多くの末日聖徒がこのような事態に巻き込まれるであろう。モルモンが記した福音の原則を、これら戦争の章の中から探してみよう。モルモンは戦争が与える途方もない苦しみを明らかにしたが、同時に、生命と自由を守るためには戦争が必要な場合もあることも説明している。モルモンも現代の預言者も、戦争が正当とされる状況について説明している(238ページにあるアルマ43:45-47の注解を参照。また242-243ページにあるアルマ51:13の注解も参照)。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910-2008年)は、戦争が正当とされる場合であっても、そのような惨事を天の

御父は悲しまれると述べている。「御自分の子供たちが何世紀にもわたって情け容赦なく滅ぼし合い、自分たちの神聖な生得権を無駄にする様子を天から御覧になって、天の御父は涙を流してこられたとわたしは思います。」(『リアホナ』2003年5月号、79) ニーファイ人と司令官モロナイは、戦争と殺戮^{さつりく}に適切な対応を執っている(238-239ページにあるアルマ43:54;44:1-2;48:11,22-23の注解を参照)。

• 第二次世界大戦時に、大管長会は以下の声明を出して、戦争に対する教会の立場を明らかにした。



「会員は政府に忠誠を尽くし、召集されたときには忠実に務めを果たさなければなりません。〔これには軍務も含みます。〕しかし教会自体は、その会員に自分たちの国に対する忠誠を十分に尽くし、愛する国を束縛から解放するよう促すことのほか、これらの政策に対して何ら責任を負っていません。

……これは全市民または臣民に要求される義務です。この義務は、『信仰箇条』に以下のように宣言されています。

『わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じる。』……

教会の会員はこの原則に従って、召集されたときには国を守るために兵役に服する義務があると考えてきました。……

教会は戦争に反対であり、また反対しなければなりません。……教会は、戦争が国際間の紛争を収める義になかった手段であると考えられません。これらの紛争は関与する国家が平和裏に交渉し調整することによって収拾すべきであり、またそのような方法によって収拾が可能です。

しかし、教会員は市民であり、政府の支配下にあります。そして、教会には政府を支配する力がありません。

……したがって、国家がこれらの原則に基づいて、合憲的な法律により軍隊に加わるように要求するとき、教会の男性は、国に忠誠を尽くす国民の第一の義務としてその要求に従わなければなりません。召集に応じて指揮官に従うとき、相手側の命を奪っても、それは殺人とはなりません。また、殺人を犯した者に定められている神の罰を受けることもありません。」(ヒーバー・J・グラント、J・ルーベン・クラーク・ジュニア、デビッド・O・マッケイ、Conference Report, 1942年4月、92-94。ボイド・K・パッカー、Conference

Report, 1968 年 4 月, 34 - 35 で引用)

アルマ 43:4 - 8 ニーファイ人の離反者がレーマン人の軍の連隊長に任命される

• ゴーラム人はかつてニーファイ人の国家に属していた。しかし、高慢のために「ゴーラム人はレーマン人となってしまった。」(アルマ 43:4) 彼らが離反する前から、ニーファイ人の指導者たちはゴーラム人がレーマン人と手を組むことを恐れていた。そうなればニーファイ人の国家が危機に陥ることは明らかであった(アルマ 31:4 参照)。このように大勢の離反者が出るのを防ぐため、アルマは率先してゴーラム人を改心させる伝道の業を行った。ゴーラム人の多くは、すでに真の信仰を捨てていたのである。中には信仰を取り戻したゴーラム人もいたが、大半は腹を立てて「レーマン人と交わり始め、レーマン人を扇動して」戦う用意をさせた(アルマ 35:10 - 11)。レーマン人の軍の指導者たちは、レーマン人よりも血に飢えていたゴーラム人とアマレカイ人を連隊長に任命して、ニーファイ人を打ち負かそうとした。

「ゴーラム人は、……ニーファイ人に対抗する手立てとして、まずレーマン人の軍勢が自分たちの地に入って来て駐留することを認めた(アルマ 43:5)。レーマン人の軍の指揮官はゼラヘムナというアマレカイ人であった。アマレカイ人はもともとニーファイ人から離反した者たちであり、ほかの離反者たちと同様、ニーファイ人に対してより深い憎しみを抱き、『レーマン人よりもっと邪悪で、殺人を好む気質を持った者たちであった……。』(アルマ 43:6) ゼラヘムナは軍の主要なポストには、すべて自分と同じアマレカイ人、または同じくらい残忍なゴーラム人を就けるように取り計らった(アルマ 43:6)。(ヒュー・ニブリー, *Since Cumorah*, 第 2 版 [1988 年], 296)

アルマ 43:13 - 14 劣勢ながらも敵に立ち向かわざるを得なかった

• ニーファイ人から離反してレーマン人となった者は、忠実なニーファイ人とほぼ同数であった(アルマ 43:14 参照)。これほど大勢のニーファイ人がレーマン人の軍隊に加わったとしたら、ニーファイ人の軍隊は数のうえで圧倒的に不利になる(アルマ 43:51 参照。モーサヤ 25:3; アルマ 2:27, 35 も参照)。しかし、ニーファイ人は信仰に頼り、ギデオンの軍隊(士師 7 - 9 章参照)やエリシャ(列王下 6:15 - 23 参照)、ベニヤミン王の軍隊(モルモンの言葉 1:14 参照)、アルマ(アルマ 2:27 - 35 参照)の時代と同様、数のうえでは圧倒的に不利な戦いの中で神が力を貸してくださると信じていた。

アルマ 43:15 - 54 ニーファイ人を守るために信仰と戦略を用いた司令官モロナイ

• 司令官の任にあったモロナイは、自分の力と主の力に頼ってニーファイ人を守った。アルマ 43 章は、司令官モロナイがいかに優れた判断力を使いながら神の勧告に従ったかを示す一例である。モロナイは各兵士に改良された武具を身に付けさせ(19 - 21 節参照)、戦いに行く前に預言者に助言を求めた(23 - 24 節参照)。

「レーマン人の軍事行動は、アマレカイ人とゴーラム人の指揮官に率いられていた。彼らはニーファイ人の軍の機密や戦闘方法を知っていたので、どんな指揮官よりもはるかに有利な立場にあった。しかし、司令官モロナイはさらにうわてであった。初めからモロナイは先見の明を持ち、当然レーマン人の軍隊の最初の標的になるはずの緩衝地帯ジェルションを守っていた(アルマ 43:22)。モロナイは守備軍の主力をここに置いていたが、預言者から助言を受けた使者が戻って来ると、レーマン人の軍隊は遠くではあるが防備の手薄なマンタイの地を攻撃しようとしていることが分かった。これは予想外のことであった(アルマ 43:24)。モロナイは直ちに軍の主力をマンタイの地に移し、そこに住む人々をレーマン人の来襲に備えさせた(アルマ 43:25 - 26)。

レーマン人の動きについて密偵^{せつこう}と斥候^{せつこう}から逐次報告を受けていたモロナイは、わなを仕掛けて、敵がシドン川を渡っているときに不意を突くことができた(アルマ 43:28 - 35)。(ヒュー・ニブリー, *Since Cumorah*, 297 - 298)

司令官モロナイは最善を尽くしていたため、主の恵みを期待することができた。モロナイは恐らく当時の最も優れた戦略家であったが、預言者の勧告に従うという謙遜な一面も見せている。この謙遜さがあったために、司令官モロナイは主の手に使われる有力な働き手となったのである。

アルマ 43:18 - 22, 37 - 38 今日^{こんにち}のわたしたちにはどのような武具があるだろうか

• 司令官モロナイは軍に身を守る武具を支給し、敵との戦いで大きな成果を上げた(アルマ 43:37 - 38 参照)。ハロルド・B・リー大管長(1899 - 1973 年)は、この節を今日のわたしたちに当てはめる方法の一つを説明している。

「人間の体には、^{やみ}闇の力によって最も攻撃を受けやすいと使徒パウロが悟って語った、4つの部分があります。徳と純潔を象徴する腰。行動を象徴する心臓。人生の目標または目的を象徴する足。そして最後にわたしたちの思いを象徴する頭です。

……わたしたちは真理の帯を腰に締めなければなりません。真理とは何でしょうか。主が言われたように、真理とは現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事についての知識です〔教義と聖約 93：24〕。……『真理の帯を腰に締めなければならない』と預言者は語っています。

次に心臓ですが、どのような胸当てで人生におけるわたしたちの行動を守ればよいでしょうか。正義の胸当てで心臓を覆うのです。真理について学んでいれば、善悪を判断する基準があります。そうすれば正しいと分かっている事柄によって自分の行動を測ることができます。わたしたちの行動を覆う胸当ては正義の胸当てです。

わたしたちの足を守るものは何でしょうか。すなわち、人生におけるわたしたちの目標や目的を評価するものは何でしょうか。……『平和の福音の備えを足にはき……なさい。』(エペソ 6：15 - 16) ……

最後に救いのかぶとです。……救いとは何でしょうか。救いとは救われることです。何から救われるのでしょうか。死と罪から救われるのです。……

さて、ここで使徒パウロは、……武具に身を固めた者の片手に盾を持たせ、他方の手に剣を持たせました。この盾と剣は当時の武器でした。この盾は信仰の盾、剣は御霊の剣、すなわち神の言葉です。信仰と、神の言葉を記した聖文の知識以上に強力な武器をわたしは思いつきません。このような武具と武器で身を固めた人は、敵に立ち向かう備えができています。』(Feet Shod with the Preparation of the Gospel of Peace, Brigham Young University Speeches of the Year [1954 年 11 月 9 日], 2 - 3, 6 - 7。エペソ 6：13 - 17；教義と聖約 27：15 - 18 も参照)

アルマ 43：23 - 25

司令官モロナイが預言者に助言を求めたのはなぜか。
どのような方法でわたしたちは預言者から
助言を受けることができるか。

アルマ 43：23 - 25 預言者に従うことによって得られる祝福

• 預言者に助言を求め、それに従おうとした司令官モロナイは、多くの戦いで勝利を取めた。今日の人生の戦いにも、預言者に従うことによって打ち勝つことができる。

スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）は、わたしたちが預言者に従わなければならない理由を強調している。「預言者、聖見者として支持した人々と、その他の幹部の兄弟たちの言葉に従おうではありませんか。わたしたちの永遠の命はそれにかかっているからです。」(『聖徒の道』1978 年 10 月号, 123)

アルマ 43：45 - 47 「血を流してでも」

• 人の命は神聖なものである。罪のない者の命を奪うことは、「主の目から見て忌まわしい行い」である (アルマ 39：5)。ただし、自分自身や家族、自由、宗教、国家を守るために人の命を奪うことは、正当とされる場合がある。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、戦争と血を流す行為について理解できるように説明している。

「ニーファイ人とレーマン人の中で戦争が激しくなったときのことにについて、記録には次のように書かれています。『ニーファイ人はもっと良い動機に励まされていた。彼らは……権力のため〔に戦ったのでは〕なく、自分たちの家と自由と、妻子と、自分たちのすべてのもののために、特に礼拝の儀式と教会のために戦っていた。』

彼らは、神に義務を負っていると感じていたことを行っていたのである。』(アルマ 43：45, 46)

主はニーファイ人に次のように勧告されました。『血を流してでも自分たちの家族を守りなさい。』(アルマ 43：47) ……

ほかの文書からも、国家が家族と自由のために独裁政治や脅威、抑圧に対して戦うことが正当とされる、あるいはむしろそうする義務が生じる時や状況があることは明らかです。……

……わたしたちは……自由を愛する民であり、自由が危機にあるときにはいつでもすべてをささげてそれを守ります。わたしは軍服姿の男女が自分たちに課せられた合法的な義務を実行するときに、その政府の代理人として神が彼らに責任を負わせるようなことはなしないと信じています。さらに、もしわたしたちが悪と抑圧の力との戦いに参加する人々の道を妨げたり遮ったりしようとするなら、神はわたしたちに責任を負わせられることでしょう。』(『リアホナ』2003 年 5 月号, 80)

アルマ 43：54；44：1 - 2；48：11, 22 - 23 モロナイは「流血を喜ばない人であった」

• 司令官モロナイは、国を守るために人の命を奪うことが正当とされる場合であっても、「流血を喜ばな〔かった。〕」(アルマ 48：11) モロナイは長年にわたって不本意ながらレー